

令和7年度指定  
スーパーサイエンスハイスクール  
研究開発実施報告書

文理融合型基礎枠 第1年次

令和8年3月



学校法人 創志学園

創志学園高等学校

SOSHIGAKUEN HIGH SCHOOL

学校法人創志学園 創志学園高等学校	文理融合基礎枠
指定第 I 期目	07～11

① 令和 7 年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題	「総合知」を駆使して創造性を発揮し、社会の諸問題に挑戦し続ける次世代の科学技術人材の育成								
② 研究開発の概要	<p>自然科学の「知」と人文・社会科学の「知」との融合による「総合知」を創出・活用できる人材を育成するための先進的なサイエンス教育の開発を行い、「総合知」を駆使して創造性を発揮し、新たな価値を創出することで、社会の諸課題に挑戦し続ける次世代の科学技術人材を育成する。「総合知」を創出・活用するために必要な力を「創志サイエンス力」として次の①～⑤のように定める。</p> <p>①断片的な知識や考えを繋ぎ合わせ、多面的に捉えることで、新たな価値や喜びを作り出すことができる力＝「挑戦力」・「創造力」</p> <p>②社会の形成者として、一人一人の夢を実現するための力 ＝「問題発見力」・「課題設定力」・「倫理的行動力」</p> <p>③収集した先行研究や数値等のデータを論理的に分析し活用する力 ＝「データ収集力」・「データ活用力」</p> <p>④立案した計画を、多様な考えを持つ他者と協働して挑戦し達成する力 ＝「計画力」・「実行力」・「協働力」・「建設的批判力」</p> <p>⑤説得力のあるプレゼンテーションを実施すると共に、建設的・批判的に聴き、振り返る力＝「発信力」・「質問力」・「省察力」</p> <p>上記達成のため、具体的に以下4つのカテゴリの目標を設定する。</p> <p>I. 創志サイエンス力育成プログラムの開発と全科・コースでの実施</p> <p>II. 倫理観・価値観の育成を基盤とした各科・コースの特色強化と総合知の育成</p> <p>III. 日々の授業における創志サイエンス力育成方法の研究</p> <p>IV. 創志サイエンス力を活用し、地域社会等に発信・貢献するための学外での実践</p>								
③ 令和 7 年度実施規模	(令和 7 年 5 月 1 日現在)								
課程（全日制）									
学科	第 1 学年		第 2 学年		第 3 学年		計		実施規模
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
普通科	196	7	186	7	148	5	530	19	全校生徒を 対象に 実施
理数特別コース	26	1	15	1	—	—	41	2	
特別進学コース	76	3	—	—	—	—	76	3	
特別進学コース(理系)	—	—	21	1	10	1	31	2	
特別進学コース(文系)	—	—	42	2	35	1	77	3	
フロンティアコース	—	—	—	—	103	3	103	3	
創造進学コース	94	3	108	3	—	—	202	6	
(内理系)	26	1	36	2	10	1	72	4	
看護科	33	1	36	1	25	1	94	3	
課程ごとの計	229	8	222	8	173	6	624	22	

④ 研究開発の内容	
○研究開発計画	
Ⅰ. 創志サイエンス力育成プログラムの開発と全科・コースでの実施	
第1年次	「サイエンス探究Ⅰ」を、各コース・科の特色に応じて実施する。
第2年次	「サイエンス探究Ⅰ」を、第1年次で得られた課題を踏まえて改善し実施する。 「サイエンス探究Ⅱ」を、「サイエンス探究Ⅰ」における各コース・科の活動から展開する形で実施する。
第3年次	「サイエンス探究Ⅰ」「サイエンス探究Ⅱ」を、第2年次で得られた課題を踏まえて改善し実施する。 「サイエンス探究Ⅲ」を、「サイエンス探究Ⅱ」における各コース・科の活動を深化させるとともに、生徒の進路達成目標に直結する内容に展開する。
第4年次	「サイエンス探究Ⅰ」「サイエンス探究Ⅱ」「サイエンス探究Ⅲ」を、第3年次までの実施成果に基づき、各研究の内容および相互の接続、各コース・科の特色との関連づけ等の観点から総合的に見直し、実施する。
第5年次	「サイエンス探究Ⅰ」「サイエンス探究Ⅱ」「サイエンス探究Ⅲ」を、第1年次～第4年次までの実施成果に基づき、全教員による全校的かつ体系的な実施体制を整備する。
Ⅱ. 倫理観・価値観の育成を基盤とした各科・コースの特色強化と総合知の育成	
第1年次	「理数研究」、広尾学園との研究交流、サイエンスイングリッシュ、有識者による毎月の講演、日々の授業における「教科横断」と「問い」の強化、「創造探究」、「サイエンス情報Ⅰ」との連携強化、創造力育成講座を開始する。
第2年次	上記の各取り組みを継続しつつ、次年度以後に効果的かつ継続可能な取り組みとなるよう、取り組みの内容や相互のバランスを適宜修正する。
第3年次	上記の各取り組みについて第2年次と同様に継続と修正を行いながら、これらの取り組みの内容を生徒の進路達成目標と結びつけて評価する。
第4年次	上記の各取り組みについて第3年次までの実施成果に基づき、それぞれの内容を総合的に捉えつつ、Ⅰの「サイエンス探究」やⅢの諸取り組みとの関連も踏まえ、創志サイエンス力の育成にどのように寄与しているかを再検討し、実施する。
第5年次	第1年次～第4年次までの実施成果に基づき、取り組みの取捨選択や発展を行いながら実施する。
Ⅲ. 日々の授業における創志サイエンス力育成方法の研究	
第1年次	「問い」を重視した学び・チームによる教科横断型授業、公開授業等、毎月の授業研修、「サイエンス情報Ⅰ・Ⅱ」を開始する。
第2年次	上記の各取り組みを継続しつつ、次年度以後に効果的かつ継続可能な取り組みとなるよう、取り組みの内容や相互のバランスを適宜修正する。
第3年次	上記の各取り組みについて第2年次と同様に継続と修正を行いながら、これらの取り組みの内容を生徒の進路達成目標と結びつけて評価する。
第4年次	上記の各取り組みについて第3年次までの実施成果に基づき、さらに充実化させる。特に「問い」を重視した学び・チームによる教科横断型授業、公開授業等、毎月の授業研修については、現実的に継続可能な頻度や形態に配慮しつつ、全教科におよぶ広範な教育活動に関連して実施することを目指す。
第5年次	第1年次～第4年次までの実施成果に基づき、上記の取り組みの意義を各教員が理解した上で協働して校内の教育活動全般を充実化させる体制を実現する。

Ⅳ. 創志サイエンスカを活用し、地域社会等に発信・貢献するための学外での実践

第1年次	「創志コミュニティカレッジ」、「創志サイエンスネットワーク」（連携する他の教育機関等）を活用した活動を開始する。
第2年次	上記の取り組みについて、参加者の振り返りや運営生徒の変化等の観点から取り組みを評価し、内容に多様性を持たせて継続させる。また、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに関連する機会を創出するとともに、連携機関を拡充する。
第3年次	連携ネットワークの拡充を図るとともに、上記の取り組みもたらず効果を生徒の進路達成目標と結びつけて評価する。
第4年次	連携ネットワークの拡充を図るとともに、外部団体や地域から本校の教育活動がどのように評価・認識されているのかを把握し、Ⅰ～Ⅳの諸活動及び学校運営に広くフィードバックする。
第5年次	第1次～第4年次までの実施成果に基づき、地域や外部団体との関わりを日頃の教育活動の中で必要に応じ柔軟に取り入れることができる体制を実現する。

○教育課程上の特例（㊸関係資料-1）

令和7年度以降の入学生					
学科・コース	開設する 教科・科目等		代替される 教科・科目等		対象、評価方法
	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	
普通科・ 理数特別コース	サイエンス・ サイエンス探究Ⅰ	1	総合的な探究 の時間	1	1年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス情報Ⅰ	2	情報・情報Ⅰ	2	1年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス探究Ⅱ	1	総合的な探究 の時間	1	2年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス探究Ⅲ	1	総合的な探究 の時間	1	3年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
普通科・ 特別進学コース	サイエンス・ サイエンス探究Ⅰ	1	総合的な探究 の時間	1	1年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス情報Ⅰ	2	情報・情報Ⅰ	2	1年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス探究Ⅱ	1	総合的な探究 の時間	1	2年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス探究Ⅲ	1	総合的な探究 の時間	1	3年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
普通科・ 創造進学コース	サイエンス・ サイエンス探究Ⅰ	1	総合的な探究 の時間	1	1年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス探究Ⅱ	1	総合的な探究 の時間	1	2年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス探究Ⅲ	1	総合的な探究 の時間	1	3年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス情報Ⅰ	2	情報・情報Ⅰ	2	3年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
看護科	サイエンス・ サイエンス探究Ⅰ	1	総合的な探究 の時間	1	1年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス探究Ⅱ	1	総合的な探究 の時間	1	2年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス探究Ⅲ	1	総合的な探究 の時間	1	3年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価
	サイエンス・ サイエンス情報Ⅰ	2	情報・情報Ⅰ	2	3年次 ○ <u>評価</u> ・ 文章評価

○令和7年度の教育課程の内容のうち特徴的な事項（㊸関係資料-1）

・サイエンス探究Ⅰ（全科コース1年／1単位）・理数研究（理数特別コース1年／2単位）  
創造探究（創造進学コース1年／4単位）

○具体的な研究事項・活動内容（㊸関係資料-4）

Ⅰ．創志サイエンス力育成プログラムの開発と全科・コースでの実施

1) サイエンス探究Ⅰ

1年全生徒を対象に、主としてHR担任教員が担当者となり、科コースごとに探究活動を行った。理数特別コースでは「AIの仕組みを理解する「科学的リテラシー」」「AIを活用して課題解決を行う「データ活用力」」「AIの可能性と限界を考察する「批判的思考力」」の育成を目標とし、AI技術の基本的知識の習得と体験し、アプリケーション開発を行った。特別進学コースと看護科は合同で「健康福祉・環境都市」「経済・交流都市」「子育て・教育都市」の3つのテーマに分かれ、さらにその中でユニットを形成し、各分野の専門家からのフィードバックを受けながら、各テーマに即した地域課題の調査およびそれをもとにした市役所への提言を行った。創造進学コースでは、「スポーツ」「教育・保育」「ビジネスマナー」「ライフスタイル」という4領域を設定し、地元官公庁・企業のスタッフおよび本校提携校であるIPU環太平洋大学の教員による講演を聴講した後、自身のテーマで探究活動を行った。

2) 探究発表会（㊸関係資料-2）

2025年12月16日に2年生の探究発表会を実施し、1・2年全生徒が参加した。2年生は55グループ（個人含む）に分かれ、ポスターセッションの形で発表を行った。この発表会にはSSH運営指導委員に出席いただき、講評や助言の形でフィードバックを得られるようにした。

3) 「自分白書」の作成

3学期には全科コースの生徒が「自分白書」の作成に取り組んだ。校内での学習や課外活動などを総合的に研究課題と捉え、それに取り組む過程で各自がどのように変容したかを振り返ることで、自身が創志サイエンス力の中のどの部分を蓄積できたかを考察した。

Ⅱ．倫理観・価値観の育成を基盤とした各科・コースの特色強化と総合知の育成

1) 理数研究

理数特別コース1年で実施した学習指導要領上の科目「理数探究」の目的に則りながら、「サボニウス型風力発電」「自転車発電」「色素増感太陽電池」という3つの発電方法をテーマでグループに分かれ、先行研究理解、実験材料収集、実験装置作り、実験結果の検討と実験条件の修正による試行錯誤といった過程を含む、実践的な自然科学的研究を行った。

2) 広尾学園との研究交流

理数特別コース1年では10月4日に広尾学園高等学校の文化祭「けやき祭」での研究発表会を見学し、理数分野の専門性の高い研究や社会課題解決型のプロジェクト等についての知識を拡げるとともに、データ分析の工夫や発表テクニックについての知見を得た。

3) サイエンスイングリッシュ

理数特別コース1年次において、科学的知見を英語で発信する基礎力を養う「サイエンスイングリッシュ」を「論理・表現Ⅰ」の枠組みで実施した。

具体的には、生物基礎の実験で得られた結果や、AIリテラシー講座で開発したアプリの機能を英語で説明するプレゼンテーション活動を取り入れた。

また、生成 AI (Gemini 等) を「対話型校閲パートナー」として活用し、生徒が自ら書いた英文の論理構成を批判的に見直し、より正確で説得力のある科学的英語表現へとブラッシュアップさせるプロセスを導入した。これにより、言語の壁を越えて「総合知」を発信する力の基礎を構築した。

#### 4) 有識者による講演

今年度は外部イベント「AI 甲子園」と「Qiita×FastDOCTOR Health Tech Hackathon」への参加という形で実施し、AI 技術をめぐる最新動向や医療・ヘルスケア分野の課題解決サービス開発の実際について、見学および講演・解説の聴講を行った。それぞれの分野における現場のリアリティを知ることのできる機会となった。

#### 5) 日々の授業における「教科横断」と「問い」の強化

AI 活用を全教科共通の「教科横断ツール」として再定義した。具体的には、英語科での AI (Gemini) 活用における「生徒が個別の習熟度や関心に応じて AI と対話しながら学びを深める“指導の個別化”」についての他教科への導入可能性を検討した。併せて、教員の ICT リテラシー向上と、高度な論理的思考力を育む「問い」の設計力の強化を図った。

#### 6) 創造探究

創造進学コース1年を対象に「コミュニケーション力」「国語力・プレゼンテーション力」「基本的な PC スキルを基盤とした情報活用能力」の向上を目的とした授業を行った。今年度はこの中でも特に国語力を重点化し、言葉の解釈の多様性や類語の意味の違い、また「良い問いとは」などの探究姿勢に関わる概念をめぐって、グループでの対話形式を通じて生徒が表現し考える活動を中心に行った。

#### 7) サイエンス情報 I との連携強化

理数特別コースの「物理基礎・化学基礎・生物基礎」において、今年度より実験中心の授業スタイルを導入した。特に生物基礎では、観察・実験によって得られた生データを「サイエンス情報 I」の授業に持ち込み、表計算ソフトや Python を用いたデータ解析、統計処理を行う連携を実施した。これにより、単なる知識の習得に留まらず、実験を通じた「問題発見力」と、ICT を駆使した「データ活用力」を有機的に結合させた。生徒は、自ら採取したデータの背後にある科学的根拠を論理的に説明するプロセスを学び、次年度の「課題研究β」に向けた高度な研究手法の基礎を確立した。

#### 8) 創造力育成講座

2025 年 7 月 17 日に、全科コースの 1～3 年生を対象に実施した。生徒はナチュラルサイエンス、ソーシャルサイエンス、メディカルサイエンスの 3 つの講演とパネルディスカッション (いずれも 30 分) を聴講した後、科コース・学年混成の 4 名からなる 121 グループに分かれ、本校新校舎各施設を会場として活用してグループディスカッションを行った。

### Ⅲ. 日々の授業における創志サイエンス力育成方法の研究

#### 1) 教員研修

2025 年 8 月 29 日に「理数特別コースにおける授業の研究開発について～他の科・コースでも活かせる! AI をツールにした授業の実践～」という題で、英語科教員による「情報」の技能を活用した授業方法の提案および、グループワークでの体験を行った。また、年間 2 回の「学力研修」では、教員自らが難関国立大入試や看護師国家試験の問題を分析し、その出題意図を日々の授業での「質の高い問い」へと変換する授業研究を教科ごとに推進した。

## 2) “教科横断型授業”公開授業

上記の研修に続き、11月18日と11月20日には、理数特別コース1年英語科「論理・表現I」にて、仮定法の文法を理解・演習する場面でAIを活用した個別最適学習の研究授業を行った。使用した言語モデルはGeminiである。教員が作成した「事前テスト」の結果をもとに、生徒は自分に必要な問題レベルを選び、Geminiと対話しながら自分の疑問点などを各々で解決しながら学習を進めた。

## IV. 創志サイエンスカを活用し、地域社会等に発信・貢献するための学外での実施

### 1) 創志コミュニティカレッジ

2025年10月4日に、地域住民と小中学生を対象にした学習交流会を実施。本校生徒考案の6つの講座と、大学教員による講演・ワークショップを行った。有志生徒が中心となって運営した。地域住民や小中学生を対象に、生徒が講師を務める「創志コミュニティ講座」を実施した。AIを活用したアプリ開発体験や、多言語コミュニケーション、理科実験教室など、本校の探究活動の成果を地域社会へ還元した。生徒にとっては、異なる世代や背景を持つ他者に対し、専門的な知見を分かりやすく伝える「発信力」と「省察力」を磨く実践の場となった。

### 2) 創志サイエンスネットワークに関わる取り組み

岡山市や岡山大学、IPU（環太平洋大学）との連携を強化し、外部専門家の知見を学校の教育財産として蓄積するデータベース化に着手した。本校独自の評価指標「SSL」を軸とした「総合知」の変容を、地域や他団体と共に検証できるネットワーク構築の土台を整備した。また、上記Ⅱの理数研究の関連で、地域の小中学生に対して実験の説明や手ほどきを本校生徒が担当する「理科大好き実験教室」を12回実施した。

## ⑤ 研究開発の成果

(根拠となるデータ等は「③関係資料」に掲載。)

### <研究開発の総括>

申請当初に計画していた研究開発事項の多くを網羅的に実行することができ、SSH I期初年度としては良いスタートを切ることができたと言える。特に、「サイエンス探究」により各科コースの特色に合わせた活動を進める生徒たちが、創造力育成講座および探究発表会等の機会により科・コース横断で協働するという形式を実現できたことから、今年度は本校の研究開発課題上の主要概念である「総合知」を促進するための主要な骨格を作ることができたと評価することができる。

本事業の評価にあたっては、独自に策定した評価指標「SSL（創志サイエンスカ）」に基づき、ルーブリック評価および生徒へのアンケート調査、外部講師によるフィードバックを組み合わせ実施した。特に「サイエンス探究I」におけるAIリテラシー講座や「創造力育成講座」を通じ、生徒の「問題発見力」および「データ活用力」に顕著な向上が見られた。また、科・コースを横断したグループワークにより、他者の視点を取り入れながら新たな価値を見出す「協働力」の基礎が形成された。教員側においても、学力研修や公開授業を通じた指導法の共有により、全校体制で「問い」を重視する授業改善への意識が高まった。

「総合知」育成の重要行事である「創造力育成講座」については、振り返りデータから、以下①～③に示す通り、本校が定義する「総合知（違いを楽しむ知の活力）」の芽生えが顕著に読み取れた。

#### ① 多角的視点の獲得と既成概念の変容

「夢」という一つのテーマに対し、メディカル・ナチュラル・ソーシャルの三つの学問領域からアプローチしたことで、生徒の80%以上が「物事を多角的に捉える重要性に気づいた」と回答した。特に「学問分野が違って、根底で繋がっている部分がある」「否定からではなく肯定から入る講師陣の対話姿勢に感銘を受けた」といった記述が多く見られ、断片的な知識を繋ぎ合わせる「創造

力」の素地が形成された。

## ② コース・学年横断による「協働力」の深化

普段関わりの少ない他コース（理数特別・普通・看護科）や他学年とのグループディスカッションにおいて、「自分にはない視点や価値観を知り、視野が広がった」とする回答が多数を占めた。これは、多様な「知」が集うことで新たな価値を創出するという「総合知」のプロセスを、生徒が体験的に理解した成果といえる。

## ③ 学習動機とキャリア意識の向上

看護科の生徒が「難聴の子供たちの夢を知り、自分の専門性を社会でどう活かすか具体的に考えた」と振り返るなど、専門教育と社会課題が結びつくことで、SSLの「倫理的行動力」や「将来への挑戦心」が喚起された。また、「大学での研究の面白さを知った」という声も多く、日々の教科学習に対する主体的な姿勢（省察力）への変容が確認された。

## <生徒の自己評価> (③関係資料-3(1)、(2))

上記を含むSSHに関連する教育活動を受けた生徒の自己評価は、本校独自の評価指標「SSL（創志サイエンス力）」に基づき、10月と2月の2回、全生徒を対象に自己評価アンケートを実施した。アンケートについては、京都大学国際高等教育院の楠見孝先生が考案したものを、許諾を得て実施した。

理数特別コースを中心とした分析の結果、以下①～③の成果が確認された。

### ① 探究プロセスの定着と自信の向上（「探究法」の伸長）

理数特別コースにおいて、10月時点では「探究法（問いの構築・仮説検証）」について「身につけている（スコア5）」と回答した生徒は12.8%であったが、2月には31.8%へと大幅に増加した。これは、1学期のAIリテラシー講座から始まり、2学期の実験中心の授業、3学期の創造力育成講座と続く「創志サイエンス力育成プログラム（SNP）」が、生徒の探究スキルに対する自己効力感を着実に高めた結果といえる。

### ② 論理的思考とエビデンス重視の姿勢（「論理・証拠重視」の向上）

「論理・証拠重視」の項目では、2月調査において理数特別コースの約8割が「身につけている」または「どちらかという身につけている」と回答した。自由記述においても、「統計データから一見関係のない情報同士の繋がりを見つける意識が芽生えた」「数学の公式を丸暗記せず、他の事象との繋がりによって本質を理解できるようになった」といった記述が散見され、情報の断片を統合して捉える「総合知」の基礎が形成されている。

### ③ 全校的な「探究心」の高位安定

特進・創進・看護の各コースにおいても、「新しいことを知りたい」という「探究心」のスコアは年間を通じて極めて高く（全体平均で肯定回答が約9割）、SSH事業が学校全体の学習意欲を底上げする強力なエンジンとなっていることが実証された。

## ⑥ 研究開発の課題

### <研究開発の総括から見えた課題>

理数特別コースを中心とした「実験中心の授業」と「AI・ICT活用」の融合により、生徒が受動的な学習から、自ら問いを立て検証する「主体的・探究的な学び」へと変容した。特に生物基礎での実験データを用いた情報科との連携は、文理融合の有効性を実証するモデルとなった。また、「創志コミュニティカレッジ」等の外部発信機会により、生徒の「発信力」が磨かれ、社会の一員としての「倫理的行動力」の芽生えが確認された。ただし、SSH校としての研究開発の取り組みは全校的に、かつ、教育活動のあらゆる部分と連動した形で進めていくべきであるため、本校研究課題を全教員で理解し、その理念を日々の教育活動に反映させるための体制を構築する必要がある。具体的には、コース・学年の教員とコーディネーター教員の協力による探究活動指導、教員持ち回りで

行う公開授業や実践報告、教員による自己評価などの実施が考えられる。これらを次年度の課題として、実施可能な形態を模索しつつ実践したい。

「創造力育成講座」については、以下①・②が次年度の課題である。

① 「総合知」の深化に向けた事前・事後学習の連動

本年度は当日の講義とディスカッションに重点を置いたが、各教科（国語・理科・社会等）の授業内で関連するトピックを事前に扱う「プレ講義」を導入し、生徒がより主体的な問いを持って当日に臨める体制を整えることを検討したい。

② ディスカッションの質を担保するファシリテーションの充実

学年やコースを横断したグループワークは「多様な視点の獲得」に有効であった一方で、議論が表層的な感想の共有に留まるグループも散見された。生徒一人ひとりが論理的・建設的な批判（クリティカルシンキング）を行えるよう、思考を可視化するワークシートの改良や、上級生がファシリテーターとして議論を導く体制の構築を検討したい。

<生徒の自己評価から見えた課題>

SSHに関連する教育活動を受けた生徒の自己評価データの詳細な分析を通じ、次年度に向けた以下①～③の課題が明確となった。

① 「読解法」および「発表法」におけるコース間格差の解消

理数特別コースでは「事実と意見を区別する（読解法）」や「説得力のあるプレゼンテーション（発表法）」のスコアが順調に伸びている一方、他コースでは依然として「どちらともいえない」という回答が約4割を占めている。専門的な探究時間の確保数やアウトプット機会の差を埋めるため、理数特別コースの事例（実験データの言語化、AIによる校閲等）を他コースの「総合的な探究の時間」へパッケージ化して導入する必要がある。

② 自己評価と客観的評価の相関分析の深化

生徒の主観的な自己評価（アンケート）は向上しているが、これが実際の論文の質や学力（模試データ等）とどのように連動しているかを検証する仕組みが未整備である。次年度は、SSL ルーブリックを用いた教員による客観評価と生徒の自己評価を照合し、より精度の高い「伸び」の可視化に取り組むべきである。

③ 「問い」を継続させる仕組みの構築

自由記述から、多くの生徒が「問いを立てることの重要性」には気づいているものの、「問いを立て続けることの難しさ」も感じていることが判明した。3年間のSNPの中で、1年次に出た「小さな問い」を2年次の「課題研究β」、3年次の「自分白書」へと持続的に深化させるための指導教員のメンター体制の強化が急務である。

以上を踏まえ、令和8年度も「自然科学の「知」と人文・社会科学の「知」との融合による「総合知」を創出・活用できる人材を育成するための先進的なサイエンス教育の開発」を推進していく所存である。

### ③関係資料

#### Ⅰ.教育課程表

普通科 理数特別コース

〈2025 年度入学生〉

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次			履修 単位 合計
				1年	2年	3年	
共通科目	国語	現代の国語	2	2			2
		言語文化	2	3			3
		論理国語	4		2	2	4
		古典探究	4		2	2	4
	地理歴史	地理総合	2		2		2
		地理探究	3			◆3	0~3
		歴史総合	2	2			2
	公民	公共	2		2		2
		政治・経済	2			◆3	0~3
	数学	数学Ⅰ	3	5			5
		数学Ⅱ	4		5		5
		数学Ⅲ	3			5	5
		数学A	2	2			2
		数学B	2		2		2
		数学C	2			3	3
	理科	物理基礎	2	2			2
		物理	4		●3	●4	0~7
		化学基礎	2	2			2
		化学	4		3	4	7
		生物基礎	2	2			2
		生物	4		●3	●4	0~7
	保健体育	体育	7~8	2	2	3	7
		保健	2	1	1		2
	芸術	音楽Ⅰ	2	■2			2
		美術Ⅰ	2	■2			
		書道Ⅰ	2	■2			
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4			4
		英語コミュニケーションⅡ	4		5		5
		英語コミュニケーションⅢ	4			5	5
		論理・表現Ⅰ	2	2			2
		論理・表現Ⅱ	2		2		2
		論理・表現Ⅲ	2			2	2
家庭	家庭基礎	2		2		2	
サイエンス	※サイエンス探究Ⅰ		1			1	
	※サイエンス探究Ⅱ			1		1	
	※サイエンス探究Ⅲ				1	1	
	理数研究		2	2		4	
	※サイエンス情報Ⅰ		2			2	
	サイエンス情報Ⅱ				2	2	
<b>普通科目単位数 計</b>				<b>36</b>	<b>36</b>	<b>36</b>	<b>108</b>
総合的な探究の時間				※	※	※	
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	3
<b>週当たり授業時数 計</b>				<b>37</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>111</b>

備考: ■●◆からそれぞれ1科目を選択。ただし、3年次の●は2年次と同一科目を選択。

※ 文部科学省のSSHの特例により、「サイエンス探究Ⅰ」「サイエンス探究Ⅱ」「サイエンス探究Ⅲ」の履修をもって1・2・3年次の「総合的な探究の時間」各1単位分の履修に、「サイエンス情報Ⅰ」の履修をもって「情報Ⅰ」2単位分の履修に替える。

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次			履修 単位 合計
				1年	2年	3年	
共通科目	国語	現代の国語	2	2			2
		言語文化	2	3			3
		論理国語	4		2	2	4
		文学国語					
		古典探究	4		2	2	4
	地理歴史	地理総合	2		2		2
		地理探究	3			◆3	0~3
		歴史総合	2	2			2
	公民	公共	2		2		2
		政治・経済	2			◆3	0~3
	数学	数学Ⅰ	3	5			5
		数学Ⅱ	4		5		5
		数学Ⅲ	3			5	5
		数学A	2	2			2
		数学B	2		2		2
		数学C	2			3	3
	理科	物理基礎	2	2			2
		物理	4		●3	●4	0~7
		化学基礎	2	2			2
		化学	4		3	4	7
		生物基礎	2	2			2
		生物	4		●3	●4	0~7
	保健体育	体育	7~8	2	2	3	7
		保健	2	1	1		2
	芸術	音楽Ⅰ	2	■2			2
		美術Ⅰ	2	■2			
		書道Ⅰ	2	■2			
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4			4
		英語コミュニケーションⅡ	4		5		5
		英語コミュニケーションⅢ	4			5	5
論理・表現Ⅰ		2	2			2	
論理・表現Ⅱ		2		2		2	
論理・表現Ⅲ		2			2	2	
家庭	家庭基礎	2		2		2	
情報	情報Ⅰ	2	2			2	
共通科目単位数計				33	33	33	99
総合的な探究の時間				1	1	1	3
特別活動（ホームルーム活動時間）				1	1	1	3
週当たり授業時数計				35	35	35	105

備考： ■●◆からそれぞれ1科目を選択  
ただし、3年次の●は2年次と同一科目を選択

普通科 特別進学コースⅠ類

〈2025年度入学生〉

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次				履修単位 合計		
				1年	2年		3年		理系	文系
					理系	文系	理系	文系		
共通科目	国語	現代の国語	2	2					2	2
		言語文化	2	3					3	3
		論理国語	4		2	2	2	2	4	4
		古典探究	4		2	2	2	2	4	4
		古典特講						2	0	2
	地理歴史	地理総合	2		2	2			2	2
		地理探究	3				◆3	◆3	0~3	0~3
		歴史総合	2	2					2	2
		日本史探究	3			2		5	0	7
	公民	公共	2		2	2			2	2
		政治・経済	2				◆3	◆3	0~3	0~3
	数学	数学Ⅰ	3	5					5	5
		数学Ⅱ	4		5	5			5	5
		数学Ⅲ	3				▲5		0~5	0
		数学A	2	2					2	2
		数学B	2		2	2			2	2
		数学C	2				□3		0~3	0
		文理数学特講					▲5	5	0~5	5
		理系数学特講					□3		0~3	0
	理科	物理基礎	2	2					2	2
		物理	4		●3		●4		0~7	0
		化学基礎	2	2					2	2
		化学	4		3		4		7	0
		生物基礎	2	2					2	2
		生物	4		●3		●4		0~7	0
	理科特講				4		4	0	8	
	保健体育	体育	7~8	2	2	2	3	3	7	7
		保健	2	1	1	1			2	2
	芸術	音楽Ⅰ	2	■2						
		美術Ⅰ	2	■2					2	2
		書道Ⅰ	2	■2						
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	4					4	4
		英語コミュニケーションⅡ	4		5	5			5	5
英語コミュニケーションⅢ		4				5	5	5	5	
論理・表現Ⅰ		2	2					2	2	
論理・表現Ⅱ		2		2	2			2	2	
論理・表現Ⅲ		2				2	2	2	2	
家庭	家庭基礎	2		2	2			2	2	
サイエンス	※サイエンス探究Ⅰ		1					1	1	
	※サイエンス探究Ⅱ			1	1			1	1	
	※サイエンス探究Ⅲ					1	1	1	1	
	※サイエンス情報Ⅰ		2					2	2	
	サイエンス情報Ⅱ					2	2	2	2	
<b>普通科目単位数計</b>				<b>34</b>	<b>34</b>	<b>34</b>	<b>36</b>	<b>36</b>	<b>104</b>	<b>104</b>
総合的な探究の時間				※	※	※	※	※		
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	1	1	3	3
<b>週当たり授業時数計</b>				<b>35</b>	<b>35</b>	<b>35</b>	<b>37</b>	<b>37</b>	<b>107</b>	<b>107</b>

備考: ■●▲◆□からそれぞれ1科目を選択。ただし、3年次の●は2年次と同一科目を選択。

2年次より理系・文系のいずれかを選択。

※ 文部科学省のSSHの特例により、「サイエンス探究Ⅰ」「サイエンス探究Ⅱ」「サイエンス探究Ⅲ」の履修をもって1・2・3年次の「総合的な探究の時間」各1単位分の履修に、「サイエンス情報Ⅰ」の履修をもって「情報Ⅰ」2単位分の履修に替える。

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次				履修単位 合計		
				1年	2年		3年		理系	文系
					理系	文系	理系	文系		
共通科目	国語	現代の国語	2	2					2	2
		言語文化	2	3					3	3
		論理国語	4		2	2	2	2	4	4
		文学国語	4			2		2	0	4
		古典探究	4		2	2	2	2	4	4
	地理歴史	地理総合	2		2	2			2	2
		地理探究	3				◆3	◆3	0~3	0~3
		歴史総合	2	2					2	2
		日本史探究	3			2		5	0	7
	公民	公共	2		2	2			2	2
		政治・経済	2				◆3	◆3	0~3	0~3
	数学	数学 I	3	5					5	5
		数学 II	4		5	5			5	5
		数学 III	3				▲5		0~5	0
		数学 A	2	2					2	2
		数学 B	2		2	2			2	2
		数学 C	2				□3		0~3	0
		文理数学特講					▲5	5	0~5	5
		理系数学特講					□3		0~3	0
	理科	物理基礎	2	2					2	2
		物理	4		●3		●4		0~7	0
		化学基礎	2	2		1		2	2	5
		化学	4		3		4		7	0
		生物基礎	2	2		1		2	2	5
		生物	4		●3		●4		0~7	0
	保健体育	体育	7~8	2	2	2	3	3	7	7
		保健	2	1	1	1			2	2
	芸術	音楽 I	2	■2						
		美術 I	2	■2					2	2
		書道 I	2	■2						
外国語	英語コミュニケーション I	3	4					4	4	
	英語コミュニケーション II	4		5	5			5	5	
	英語コミュニケーション III	4				5	5	5	5	
	論理・表現 I	2	2					2	2	
	論理・表現 II	2		2	2			2	2	
	論理・表現 III	2				2	2	2	2	
家庭	家庭基礎	2		2	2			2	2	
情報	情報	I	2	2				2	2	
<b>共通科目単位数計</b>				<b>33</b>	<b>33</b>	<b>33</b>	<b>33</b>	<b>33</b>	<b>99</b>	<b>99</b>
総合的な探究の時間				1	1	1	1	1	3	3
特別活動（ホームルーム活動時間）				1	1	1	1	1	3	3
<b>週当たり授業時数計</b>				<b>35</b>	<b>35</b>	<b>35</b>	<b>35</b>	<b>35</b>	<b>105</b>	<b>105</b>

備考： ■●▲◆□からそれぞれ1科目を選択  
 ただし、3年次の●は2年次と同一科目を選択  
 2年次より理系・文系のいずれかを選択

普通科 特別進学コースⅡ類

〈2025年度入学生〉

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次				履修単位 合計		
				1年	2年		3年		理系	文系
					理系	文系	理系	文系		
共通科目	国語	現代の国語	2	2					2	2
		言語文化	2	2					2	2
		論理国語	4		2	2	2	2	4	4
		古典探究	4		2	2	2	2	4	4
		古典特講						2	0	2
	地理歴史	地理総合	2		2	2			2	2
		地理探究	3				▲3	○3	0~3	0~3
		歴史総合	2	2					2	2
		日本史探究	3			2		4	0	6
		日本史特講						△3	0	0~3
	公民	公共	2		2	2			2	2
		政治・経済	2				▲3	○3	0~3	0~3
	数学	数学Ⅰ	3	3					3	3
		数学Ⅱ	4		4	4			4	4
		数学Ⅲ	3				◆3		0~3	0
		数学A	2	2					2	2
		数学B	2		2	2			2	2
		数学C	2				□2		0~2	0
		文理数学特講					◆3	△3	0~3	0~3
		理系数学特講					□2		0~2	0
	理科	物理基礎	2	2					2	2
		物理	4		●2		●3		0~5	0
		化学基礎	2	2					2	2
		化学	4		2		3		5	0
		生物基礎	2	2					2	2
		生物	4		●2		●3		0~5	0
		理科特講				2		◇2	0	2~4
	保健体育	体育	7~8	2	2	2	3	3	7	7
		保健	2	1	1	1			2	2
	芸術	音楽Ⅰ	2	■2						
		美術Ⅰ	2	■2					2	2
		書道Ⅰ	2	■2						
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3					3	3
		英語コミュニケーションⅡ	4		4	4			4	4
		英語コミュニケーションⅢ	4				4	4	4	4
		論理・表現Ⅰ	2	2					2	2
		論理・表現Ⅱ	2		2	2			2	2
		論理・表現Ⅲ	2				2	2	2	2
		英語特講						◇2	0	0~2
	家庭	家庭基礎	2		2	2			2	2
サイエンス	※サイエンス探究Ⅰ		1					1	1	
	※サイエンス探究Ⅱ			1	1			1	1	
	※サイエンス探究Ⅲ					1	1	1	1	
	※サイエンス情報Ⅰ		2					2	2	
	サイエンス情報Ⅱ					2	2	2	2	
<b>普通科目単位数計</b>				<b>30</b>	<b>30</b>	<b>30</b>	<b>30</b>	<b>30</b>	<b>90</b>	<b>90</b>
総合的な探究の時間				※	※	※	※	※		
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	1	1	3	3
<b>週当たり授業時数計</b>				<b>31</b>	<b>31</b>	<b>31</b>	<b>31</b>	<b>31</b>	<b>93</b>	<b>93</b>

備考: ■●▲◆□○△◇からそれぞれ1科目を選択。ただし、3年次の●は2年次と同一科目を選択。

※ 文部科学省のSSHの特例により、「サイエンス探究Ⅰ」・「サイエンス探究Ⅱ」・「サイエンス探究Ⅲ」の履修をもって1・2・3年次の「総合的な探究の時間」各1単位分の履修に、「サイエンス情報Ⅰ」の履修をもって「情報Ⅰ」2単位分の履修に替える。

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次				履修単位 合計		
				1年	2年		3年		理系	文系
					理系	文系	理系	文系		
共通科目	国語	現代の国語	2	2					2	2
		言語文化	2	2					2	2
		論理国語	4		2	2	2	2	4	4
		古典探究	4		2	2	2	2	4	4
		国語特講						2	0	2
	地理歴史	地理総合	2		2	2			2	2
		地理探究	3				▲3		0~3	0
		歴史総合	2	2					2	2
		日本史探究	3			2		3	0	5
		日本史特講						○4	0	0~4
	公民	公共	2		2	2			2	2
		政治・経済	2				▲3	3	0~3	3
	数学	数学Ⅰ	3	3					3	3
		数学Ⅱ	4		4	4			4	4
		数学Ⅲ	3				◆4		0~4	0
		数学A	2	2					2	2
		数学B	2		2	2			2	2
		数学C	2				□2		0~2	0
		文理数学特講					◆4	○4	0~4	0~4
		理系数学特講					□2		0~2	0
	理科	物理基礎	2	2					2	2
		物理	4		●2		●3		0~5	0
		化学基礎	2	2					2	2
		化学	4		2		4		6	0
		生物基礎	2	2					2	2
		生物	4		●2		●3		0~5	0
	理科特講				2		△4	0	2~6	
	保健体育	体育	7~8	2	2	2	3	3	7	7
		保健	2	1	1	1			2	2
	芸術	音楽Ⅰ	2	■2						
		美術Ⅰ	2	■2					2	2
		書道Ⅰ	2	■2						
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3					3	3
		英語コミュニケーションⅡ	4		4	4			4	4
		英語コミュニケーションⅢ	4				4	4	4	4
		論理・表現Ⅰ	2	2					2	2
		論理・表現Ⅱ	2		2	2			2	2
		論理・表現Ⅲ	2				2	2	2	2
		英語特講						△4	0	0~4
	家庭	家庭基礎	2		2	2			2	2
	情報	情報Ⅰ	2	2					2	2
	<b>普通科目単位数計</b>				<b>29</b>	<b>29</b>	<b>29</b>	<b>29</b>	<b>29</b>	<b>87</b>
総合的な探究の時間				1	1	1	1	1	3	3
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	1	1	3	3
<b>週当たり授業時数計</b>				<b>31</b>	<b>31</b>	<b>31</b>	<b>31</b>	<b>31</b>	<b>93</b>	<b>93</b>

備考: ■●▲◆□○△からそれぞれ1科目を選択。ただし、3年次の●は2年次と同一科目を選択

2年次より理系・文系のいずれかを選択

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次					履修単位 合計	
				1年	2年		3年		理系	文系
					理系	文系	理系	文系		
共通科目	国語	現代の国語	2	2					2	2
		言語文化	2	2					2	2
		論理国語	4		2	2	2	2	4	4
		文学国語	4			2		2	0	4
		古典探究	4		2	2	2	2	4	4
	地理歴史	地理総合	2		2	2			2	2
		地理探究	3				4		4	0
		歴史総合	2	2					2	2
		日本史探究	3			2		4	0	6
	公民	日本史特講						○4	0	0~4
		政治・経済	2	1	1	1			2	2
	数学	数学Ⅰ	3	3					3	3
		数学Ⅱ	4	1	3	3			4	4
		数学Ⅲ	3				▲4		0~4	0
		数学A	2	2					2	2
		数学B	2		2	2			2	2
		数学C	2				□2		0~2	0
		文理数学特講					▲4	○4	0~4	0~4
	理科	理系数学特講					□2		0~2	0
		物理基礎	2	2					2	2
		物理	4		●2		●4		0~6	0
		化学基礎	2		2	2			2	2
		化学	4		2		4		6	0
		生物基礎	2	2					2	2
		生物	4		●2		●4		0~6	0
	保健体育	理科特講						△4	0	0~4
		体育	7~8	2	2	2	3	3	7	7
	芸術	保健	2	1	1	1			2	2
		音楽Ⅰ	2	■2						
		美術Ⅰ	2	■2					2	2
	外国語	書道Ⅰ	2	■2						
		英語コミュニケーションⅠ	3	3					3	3
		英語コミュニケーションⅡ	4		4	4			4	4
		英語コミュニケーションⅢ	4				4	4	4	4
		論理・表現Ⅰ	2	2					2	2
		論理・表現Ⅱ	2		2	2			2	2
		論理・表現Ⅲ	2					2	0	2
	家庭情報	英語特講						△4	0	0~4
		家庭基礎	2		2	2			2	2
		情報Ⅰ	2	2					2	2
普通科目単位数計				29	29	29	29	29	87	87
総合的な探究の時間				1	1	1	1	1	3	3
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	1	1	3	3
週当たり授業時数計				31	31	31	31	31	93	93

備考： ■●▲□○△からそれぞれ1科目を選択

ただし、3年次の●は2年次と同一科目を選択

2年次より理系・文系のいずれかを選択

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次			履修 単位 合計
				1年	2年	3年	
共通科目	国語	現代の国語	2	2			2
		言語文化	2	2			2
		論理国語	4		2	2	4
		文学国語	4		◆2	○2	0~4
		古典探究	4		◆2	○2	0~4
	地理歴史	地理総合	2		2		2
		歴史総合	2	2			2
		日本史探究	3		2	4	6
		日本史演習				△3	0~3
	公民	公共	2		2		2
		政治・経済	2			2	2
	数学	数学Ⅰ	3	3			3
		数学A	2	■2			0~2
		数学演習			▼2	△3	0~5
	理科	科学と人間生活	2	2			2
		生物基礎	2		2		2
		理科演習				◇4	0~4
	保健体育	体育	7~8	2	3	2	7
		保健	2	2			2
	芸術	音楽Ⅰ	2	●2			2
		美術Ⅰ	2	●2			
		書道Ⅰ	2	●2			
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
		英語コミュニケーションⅡ	4		3		3
		英語コミュニケーションⅢ	4			3	3
		論理・表現Ⅰ	2	2			2
		論理・表現Ⅱ	2		2		2
		論理・表現Ⅲ	2			2	2
		英語演習				◇4	0~4
	家庭	家庭基礎	2		2		2
	サイエンス	※サイエンス探究Ⅰ		1			1
		※サイエンス探究Ⅱ			1		1
		※サイエンス探究Ⅲ				1	1
創造探究			4	4	2	10	
※サイエンス情報Ⅰ					2	2	
<b>共通科目単位数 計</b>				<b>27~29</b>	<b>27~29</b>	<b>22~29</b>	<b>73~84</b>
専門科目	体育	(削除)					
		スポーツⅡ		■2	▼2	△3	0~7
		スポーツⅢ		■2	▼2	△3	0~7
		スポーツ総合演習				◇4	0~4
	<b>専門科目単位数 計</b>				<b>0~2</b>	<b>0~2</b>	<b>0~7</b>
総合的な探究の時間				※	※	※	
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	3
<b>週当たり授業時数 計</b>				<b>30</b>	<b>30</b>	<b>30</b>	<b>90</b>

備考: ■●◆▼○△◇からそれぞれ1科目を選択。

※ 文部科学省のSSHの特例により、「サイエンス探究Ⅰ」・「サイエンス探究Ⅱ」・「サイエンス探究Ⅲ」の履修をもって1・2・3年次の「総合的な探究の時間」各1単位分の履修に、「サイエンス情報Ⅰ」の履修をもって「情報Ⅰ」2単位分の履修に替える。

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次			履修 単位 合計
				1年	2年	3年	
共通科目	国語	現代の国語	2	2			2
		言語文化	2	2			2
		論理国語	4		2	2	4
		文学国語	4		◆2	○2	0~4
		古典探究	4		◆2	○2	0~4
	地理歴史	地理総合	2		2		2
		歴史総合	2	2			2
		日本史探究	3		2	4	6
		日本史演習				△3	0~3
	公民	公共	2		2		2
		政治・経済	2			2	2
	数学	数学Ⅰ	3	3			3
		数学Ⅱ	4		▼4		0~4
		数学A	2	■2			0~2
		数学演習				△3	0~3
	理科	科学と人間生活	2	2			2
		生物基礎	2		2		2
		理科演習				◇4	0~4
	保健体育	体育	7~8	3	3	2	8
		保健	2	2			2
	芸術	音楽Ⅰ	2	●2			2
		美術Ⅰ	2	●2			
		書道Ⅰ	2	●2			
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
		英語コミュニケーションⅡ	4		3		3
		英語コミュニケーションⅢ	4			3	3
		論理・表現Ⅰ	2	2			2
		論理・表現Ⅱ	2		2		2
論理・表現Ⅲ		2			2	2	
英語演習			▲2		◇4	0~6	
家庭	家庭基礎	2		2		2	
情報	情報Ⅰ	2			2	2	
<b>共通科目単位数 計</b>				<b>23~27</b>	<b>22~26</b>	<b>19~26</b>	<b>64~79</b>
専門科目	体育	スポーツ概論		■2			0~2
		スポーツⅡ		▲2	▼4	△3	0~9
		スポーツⅢ		▲2	▼4	△3	0~9
		スポーツ総合演習				◇4	0~4
	<b>専門科目単位数 計</b>				<b>0~4</b>	<b>0~4</b>	<b>0~7</b>
総合的な探究の時間				2	3	3	8
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	3
<b>週当たり授業時数 計</b>				<b>30</b>	<b>30</b>	<b>30</b>	<b>90</b>

備考: ■●▲◆▼○△◇からそれぞれ1科目を選択

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次			履修 単位 合計
				1年	2年	3年	
共通 科目	国語	現代の国語	2	2			2
		言語文化	2	2			2
		論理国語	4		2	2	4
		文学国語	4		◆2	○2	0~4
		古典探究	4		◆2	○2	0~4
	地理歴史	地理総合	2		2		2
		歴史総合	2	2			2
		日本史探究	3		2	4	6
		日本史演習				△3	0~3
	公民	公共	2	1	1		2
		政治・経済	2			2	2
	数学	数学Ⅰ	3	3			3
		数学Ⅱ	4		▼4		0~4
		数学A	2	■2			0~2
		数学演習				△3	0~3
	理科	科学と人間生活	2	2			2
		生物基礎	2		2		2
		理科演習				◇4	0~4
	保健体育	体育	7~8	3	3	2	8
		保健	2	1	1		2
	芸術	音楽Ⅰ	2	●2			
		美術Ⅰ	2	●2			2
		書道Ⅰ	2	●2			
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3
		英語コミュニケーションⅡ	4		4		4
		英語コミュニケーションⅢ	4			3	3
		論理・表現Ⅰ	2	2			2
論理・表現Ⅱ		2		2		2	
論理・表現Ⅲ		2			2	2	
英語演習			▲2		◇4	0~6	
家庭	家庭基礎	2		2		2	
情報	情報Ⅰ	2			2	2	
<b>共通科目単位数 計</b>				<b>23~27</b>	<b>23~27</b>	<b>19~26</b>	<b>65~80</b>
専門 科目	体育	スポーツ概論		■2			0~2
		スポーツⅡ		▲2	▼4	△3	0~9
		スポーツⅢ		▲2	▼4	△3	0~9
		スポーツ総合演習				◇4	0~4
	<b>専門科目単位数 計</b>				<b>0~4</b>	<b>0~4</b>	<b>0~7</b>
総合的な探究の時間				2	2	3	7
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	3
<b>週当たり授業時数 計</b>				<b>30</b>	<b>30</b>	<b>30</b>	<b>90</b>

備考: ■●▲◆▼○△◇からそれぞれ1科目を選択

看護科・専攻科

〈2025年度入学生〉

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次			高校 履修 単位 合計	分野	科目名	配当年次		4・5年 履修単位 合計	
				1年	2年	3年				4年	5年		
普通 科目	国語	現代の国語	2	2			2	基礎 分野	教育学	1		1 (30)	
		言語文化	2	2			2		心理学	1		1 (30)	
		論理国語	4		2	2	4		人間科学		1	1 (30)	
	地理 歴史	地理総合	2			2	2		情報科学		1	1 (15)	
		歴史総合	2	2			2		健康科学	1		1 (15)	
	公民	公共	2		2		2		人間関係学	1		1 (30)	
	数学	数学Ⅰ	3	3			3		言語表現学	1		1 (15)	
		数学A	2		2		2		国際関係学		1	1 (15)	
	理科	科学と人間生活	2	2			2		看護英語		1	1 (15)	
		化学基礎	2		2		2		芸術	1		1 (15)	
		生物基礎	2		2	2	4	<b>基礎分野単位数 計</b>					
	保健 体育	体育	7～8	2	2	3	7		<b>6</b>	<b>4</b>	<b>10 (210)</b>		
		保健	2				0						
	芸術	音楽Ⅰ	2	2			2	専門 基礎 分野	解剖生理学	2		2 (60)	
	外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	3			3		生化学	1		1 (15)	
		英語コミュニケーションⅡ	4		2	2	4		栄養学	1		1 (15)	
		論理・表現Ⅰ	2	2			2		薬理学	1		1 (15)	
	家庭	家庭基礎	2		2		2		病理学	1		1 (15)	
	サイエンス	※サイエンス探究Ⅰ			1		1		病態学	4		4 (105)	
		※サイエンス探究Ⅱ				1	1		微生物学	1		1 (15)	
※サイエンス探究Ⅲ					1	1	公衆衛生学			1	1 (30)		
看護探究					1	1	社会福祉学			1	1 (30)		
※サイエンス情報Ⅰ					2	2	関係法規			1	1 (15)		
<b>普通科目単位数 計</b>				<b>21</b>	<b>17</b>	<b>15</b>	<b>53</b>						
専門 基礎 分野	看護	人体の構造と機能	7	2	2		4	<b>専門基礎分野単位数 計</b>	精神保健		1	1 (15)	
		疾病の成り立ちと回復の促進		3	2	5	総合医療論		1		1 (15)		
		健康支援と社会保障制度		1		1	1		<b>12</b>			<b>4</b>	<b>16 (345)</b>
<b>専門基礎分野単位数 計</b>				<b>2</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>10</b>						
専門 分野	看護	基礎看護	8	5	4		9		専門 分野	基礎看護学	4	1	5 (135)
		在宅看護	1			1	1			地域・在宅看護論	2	3	5 (95)
		成人看護	2		1	2	3			成人看護学	3	3	6 (120)
		老年看護	1		1	1	2			老年看護学	3		3 (60)
		小児看護	1			1	1			小児看護学	3		3 (60)
		母性看護	1			1	1			母性看護学	3		3 (65)
		精神看護	1				1	精神看護学			4	4 (90)	
	看護臨地実習	10	1	1	3	5	看護の統合と実践	1		4	5 (110)		
	看護臨地実習				3	3	在宅・成人・老年小児・母性 精神・看護の統合と実践	8		6	14 (630)		
	<b>看護臨地実習単位数 計</b>				<b>6</b>	<b>7</b>	<b>12</b>	<b>25</b>					
総合的な探究の時間				※	※	※		看護臨地実習		4	4 (180)		
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	3	<b>専門分野単位数 計</b>			<b>27</b>	<b>25</b>	<b>52 (1545)</b>
<b>週当たり授業時数 計</b>				<b>30</b>	<b>30</b>	<b>31</b>	<b>91</b>	<b>総 計</b>			<b>45</b>	<b>33</b>	<b>78 (2100)</b>

備考: ※保健(代替:基礎看護2単位)。  
 ※看護情報活用(代替:情報Ⅰ2単位)  
 ※普通科目を1～3年生で、基礎分野を4・5年生で履修する。  
 ※単位の算定基準:高校はすべて1単位35時間。  
 4・5年生は講義及び演習が1単位15～30時間、実験及び実技1単位30～45時間、臨地実習1単位45時間、臨地実習1単位45時間

※ 文部科学省のSSHの特例により、「サイエンス探究Ⅰ」「サイエンス探究Ⅱ」「サイエンス探究Ⅲ」の履修をもって1・2・3年次の「総合的な探究の時間」各1単位分の履修に、「サイエンス情報Ⅰ」の履修をもって「情報Ⅰ」2単位分の履修に替える。

区分	教科名	科目名	標準 単位数	配当年次			高校 履修 単位 合計	分野	科目名	配当年次		専攻科 履修単位 合計	
				1年	2年	3年				1年	2年		
普通科目	国語	現代の国語	2	2			2	基礎分野	教育学	1		1 (30)	
		言語文化	2	2			2		心理学	1		1 (30)	
		論理国語	4		2	2	4		人間科学		1	1 (30)	
	地理歴史	地理総合	2			2	2		情報科学		1	1 (15)	
		歴史総合	2	2			2		健康科学	1		1 (15)	
	公民	公民	2		2		2		人間関係学	1		1 (30)	
		数学 I	3	3			3		言語表現学	1		1 (15)	
	数学	数学 A	2		2		2		国際関係学		1	1 (15)	
		科学と人間生活	2	2			2		看護英語		1	1 (15)	
	理科	化学基礎	2		2		2		芸術	1		1 (15)	
		生物基礎	2		2	2	4						
	保健体育	体育	7~8	2	2	3	7						
		保健	2				0		基礎分野単位数計		6	4	10 (210)
	芸術	音楽 I	2	2			2		専門基礎分野	解剖生理学	2		2 (60)
		英語コミュニケーション I	3	3			3			生化学	1		1 (15)
	英語コミュニケーション II	4		2	2	4	栄養学			1		1 (15)	
	論理・表現 I	2	2			2	薬理学			1		1 (15)	
	家庭基礎	2		2		2	病理学			1		1 (15)	
	情報 I	2			2	2	病態学			4		4 (105)	
	普通科目単位数計				20	16	13			49	微生物学	1	
専門基礎分野	看護	人体の構造と機能	7	2	2		4	公衆衛生学			1	1 (30)	
		疾病の成り立ちと回復の促進			3	2	5	社会福祉学			1	1 (30)	
		健康支援と社会保障制度	1			1	1	関係法規			1	1 (15)	
								精神保健		1	1 (15)		
専門基礎分野単位数計				2	5	3	10	総合医療論	1		1 (15)		
専門分野	看護	基礎看護	8	5	4		9	専門基礎分野単位数計		12	4	16 (345)	
		在宅看護	1			1	1	基礎看護学	4	1	5 (135)		
		成人看護	2		1	2	3	地域・在宅看護論	2	3	5 (95)		
		老年看護	1		1	1	2	成人看護学	3	3	6 (120)		
		小児看護	1			1	1	老年看護学	3		3 (60)		
		母性看護	1			1	1	小児看護学	3		3 (60)		
		臨地実習	看護臨地実習	10	1	1	3	5	母性看護学	3		3 (65)	
			看護臨地実習				3	3	精神看護学		4	4 (90)	
		専門分野単位数計				6	7	12	25	看護の統合と実践	1	4	5 (110)
		総合的な探究の時間				1	1	1	3	臨地実習	在宅・成人・老年・小児・母性	8	6
特別活動(ホームルーム活動時間)				1	1	1	3	臨地実習	精神・看護の統合と実践		4	4 (180)	
週当たり授業時数計				30	30	30	90	専門分野単位数計		27	25	52 (1545)	
								総計		45	33	78 (2100)	

備考: ※保健(代替:基礎看護2単位)  
 ※看護情報活用(代替:情報 I 2単位)  
 ※普通科目を1~3年生で、基礎分野を4・5年生で履修する。  
 ※単位の算定基準:高校はすべて1単位35時間、4・5年生は講義及び演習が1単位15~30時間、実験及び実技1単位30~45時間、  
 臨地実習1単位45時間

## 2. 2年生課題研究のテーマ

### 令和7年度 総合的な探究の時間 課題研究タイトル一覧

No.	所属ゼミ	研究タイトル	No.	所属ゼミ	研究タイトル
1	数理科学	m×n型のチェスボードにおけるクロウズド・ナイトツアーの存在について	29	法律	米価の高騰に関する研究
2	情報エンジニアリング	コントラバス演奏のAI評価システムの開発	30	法律	死刑に代わる刑罰の可能性
3	情報エンジニアリング	議論音声の自動評価手法の検討	31	ビジネス	ダンスを通じてビジネス
4	情報エンジニアリング	UnityとC#言語を用いたAI駆動型開発によるゲーム製作	32	ビジネス	廃棄野菜を減らそう
5	先端生命工学	野菜の皮で植物は育つのか	33	ビジネス	南海トラフ地震に備える
6	先端生命工学	バジルの香り七変化！！	34	ビジネス	新ビジネスモデル
7	バイオテクノロジー	Glass catfishの行動に及ぼす光環境の効果	35	ビジネス	ランドセルを世界中の子供たちに
8	バイオテクノロジー	ミスジマイマイにおけるエサの嗜好性について	36	ビジネス	人気のジュース
9	ゲノミクス	筋肉組織における遺伝子発現比較	37	ビジネス	動物と高齢者の関係
10	ゲノミクス	マウスの肝臓における薬物代謝酵素遺伝子群の性差	38	ビジネス	医療AIロボット
11	数理	円周率の近似値の確率的な検証とゼータ関数について	39	地域歴史	星への信仰～岡山妙見十二座の分析～
12	数理	2次式の係数の入れ替えと因数分解の可能性について	40	地域歴史	古代岡山の中心地「吉備の中山」の謎に迫る
13	数理	数学って本当に必要？	41	国際	スペイン語を身近に～身の回りのスペイン語と挨拶編～
14	数理	身の回りにある「得」について	42	国際	フランス語・ロシア語
15	環境	サボニウス型風車の実用化検証～高効率・低コスト化による風力発電の再構築～	43	国際	日中をつなぐ見えない糸
16	環境	ミドリムシ培養の最適化条件を探る～環境変化による増殖特性の比較研究～	44	国際	韓国語を少しでも知ってもらおう
17	環境	ワックスワームの最適な生育のための餌作り	45	文学	人と文学
18	環境	アカハライモリにおける性差の特定～尾・総排出口・体型による多角的評価～	46	文学	音楽が人に与える影響
19	環境	古紙から生まれる新しい価値ー再生紙の可能性ー	47	文学	医療と色彩
20	環境	残飯を利用したエコな肥料～コンポスト肥料が与える二十日大根の生育への影響～	48	文学	人はなぜ恋愛をするのか
21	理工	より効率の良いピアノ練習方法について	49	言語学	法則性を見抜く～言語学オリンピックへの取り組みを通じて～
22	理工	素材による吸音の違い	50	言語学	緑なのに青と呼ぶ事象について
23	理工	音力発電でエネルギー不足解消のために	51	教育	理不尽な校則について
24	理工	音楽療法の効果について	52	教育	生徒からみた理想の授業と教師からみた理想の授業の差
25	理工	音楽と人の心の関係	53	教育	校則について
26	理工	岡山のスーパーで流れる最適なBGMについての考察	54	教育	歴史について
27	地域保健	お野菜を食べよう！	55	教育	部活動の顧問になったことによる効果と仕事
28	地域保健	食中毒と予防について			

### 3. SSH 運営指導委員会の記録

#### 第1回 SSH 運営指導委員会

【開催日】令和7年7月11日（金）14:30～16:00

【場 所】創志学園高等学校

【内 容】

- (1) 開会（司会：木口）
- (2) 挨拶（今井）
- (3) 自己紹介
- (4) 研究協議
  - ① SSH 第I期（令和7～11年度）事業計画
  - ② 令和7年度 SSH 事業
- (5) 校長 挨拶
- (6) 閉会

【質疑・指導助言・意見交換】

○これまでの取り組みについて

- ・「自分白書」について、生徒が後ろ向きの評価にならないような振り返りや評価方法の実践ができるのか質問があり、本校教員が「自分白書」では「変容」を問いかけ、生徒が自身のプラスの変化を記述するよう促していると回答した。
- ・現在の生徒評価が感情に偏っているとの指摘があり、ポートフォリオを「成長した点」と「課題」の二側面からメタ的に振り返らせるべきであるとの提案があった。
- ・教科横断については、理数特別コースで生物の実験データ分析を情報科で行うなど、連携が進んでいるが、内容だけでなく「資質能力」の観点から繋げるとさらに良いとの指摘やデータ収集後の統計的分析（情報科）、効率的な説明（国語力）による教科横断の可能性の提示があった。
- ・「楽しさ」が認知神経科学の「気分一致性」に繋がり、学習意欲や自己肯定感を高める。
- ・「問いを立てる」ことの重要性を強調し、教師は探究の方法を伝えていく必要がある。
- ・「創造力育成講座」はイベントであり、通常の授業ではないことを確認した。
- ・「旨味成分」や「ハーバー・ボッシュ法」の例のように、専門知識を生徒の生活や身体と結びつけて教えることが重要である。
- ・楽しさにつながるテーマを教員が継続的に考案し、生徒のアイデアも取り入れて蓄積していくよう激励された。

○今年度計画について

- ・理数特別コースにおけるAI導入については、生徒の興味関心や教員の専門性を背景として取り組まれている点が評価された。AIが統計的・機械的推論（過去志向）を行うのに対し、人間は仮説形成や創造的発想（未来志向）を行えるという違いを踏まえ、生徒に「人間とは何か」を考えさせる学習機会として活用することが期待される。
- ・特別進学コースの岡山市をテーマとした探究活動については、高校生が取り組む課題としての実現可能性を意識し、「誰の視点で課題を捉えているのか」という立場の明確化や、意思決定に至るプロセスを重視した議論を行うことの重要性が指摘された。
- ・創造進学コースの取組については、教員間での情報共有や指導方法の連携を進める必要があることが示された。また、生徒のプレゼンテーション能力（国語力・表現力）の育成は評価できる取組であり、SSHにおける教科横断的な資質・能力の育成として意義があるとされた。
- ・SSHは公費による研究開発事業であることから、生徒にどのような力を育成するのかを明確にし、その力を「何を・どこで・どのように測定するのか」を整理した評価計画を構築する必要があると

の指摘があった。

- ・現在の評価が生徒の感想など主観的な側面に偏る傾向があることを踏まえ、探究的学習スキルや批判的思考態度などを測定する外部の評価尺度（京都大学楠見孝教授らの尺度等）や非認知能力の指標を参考にし、生徒の資質・能力の伸長を客観的に把握する方法を検討することが提案された。
- ・探究活動の中で自己評価が低下することは成長過程において自然な現象であり、挫折や気づきを次の学びにつなげる視点が重要である。また、生徒の変化を教員が実感している感覚と客観的指標を組み合わせて示すことで、学校独自の評価モデルとして発信できる可能性があるとの助言があった。

## 第2回 SSH 運営指導委員会

【開催日】 令和7年12月16日（火）14:20～15:50

【場 所】 創志学園高等学校

【内 容】

○SSH 探究発表会 10:30～12:30

- ・2年生徒175名、55グループがポスター発表
- ・選出された数グループ→運営指導委員の先生からご指導いただく

○SSH 運営指導委員会

(1) 開会

(2) 校長 挨拶

(3) 研究協議

① SSH(文理融合基礎枠)第I期(1年次)令和7年度実施報告

② 意見交換、指導・助言

(4) 閉会

【質疑・指導助言・意見交換】

○創志サイエンス力育成プログラムの開発と全科・コースでの実施

- ・各コースにおいて教授方法や探究活動の進め方に違いが見られ、その違いが評価結果にも反映されていることが指摘された。今後はこうした差異を比較・分析することにより、生徒の探究スキルの定着に有効な指導方法を明らかにしていくことが期待される。
- ・創造進学コースでは、探究活動に先立って基礎的な探究スキルの指導を重視していることから、現段階では成果が数値として十分に表れていない可能性も考えられる。今後、実際の探究活動の進展に伴う変化を継続的に評価していくことの重要性が示唆された。
- ・探究活動における個人研究とグループ研究の在り方について議論があり、テーマや目的に応じて両者を柔軟に組み合わせることが望ましいとの意見が示された。また、グループ活動では生徒一人ひとりの役割や貢献が見えにくくなることから、学習過程や役割分担を踏まえた評価方法の工夫が必要であることが指摘された。
- ・探究の評価については、最終成果のみならず、思考や試行錯誤の過程をどのように評価するかが重要であり、他校の取組も参考にしながら評価手法の研究を進めていくことが期待される。

○倫理観・価値観の育成を基盤とした各科・コースの特色強化と総合知の育成

- ・探究活動の推進にあたっては研究倫理への配慮が不可欠であり、特に動物実験については脊椎動物の扱いを一つの判断基準として慎重に取り扱う必要があることが指摘された。また、生徒が研究倫理や生命倫理を意識しながら探究活動に取り組む姿勢を育成することの重要性が示された。
- ・さらに、高大接続の観点から、大学の倫理委員会の知見や研究環境を参考にすることや、大学との連携を通じた探究活動の可能性について検討することも有効であるとの助言があった。

○創志サイエンス力を活用し、地域社会等に発信・貢献するための学外での実践

- ・創志コミュニティカレッジや理科実験教室など、地域の小中学生との交流を通じた取組は、生徒の自己肯定感や社会性の育成につながる意義ある活動であるとの評価が示された。
- ・高校生が中学生にとって将来のモデルとなることで学習意欲の向上にも寄与することから、地域との連携を意識した学外での実践を今後も継続・発展させていくことが期待される。

### 3. 自己評価アンケート

#### (1)実施したアンケート

創志学園高等学校 SSH 評価シート 回答日：2025年（ ）月（ ）日  
 学年（ ）クラス（ ）番号（ ）名前（ ）

#### 1. 探究スキル

テーマを決めて、グループで活動をしてその成果を発表するというを考えてみて下さい。

あなたは、以下の活動するための方法を、いまどのくらい身につけていますか。

「身につけている」から「身につけていない」までの5つの答えから、それぞれ1つずつ数字を選び○をつけてください。

	身につけている	身につけている どちらかというど	どちらともいえない	身につけていない どちらかというど	身につけていない
(1) 自分の関心に基づいてテーマを決め、明確な問いを立てる	5	4	3	2	1
(2) 目標を具体化するため計画を作る	5	4	3	2	1
(3) 根拠が明確な参考資料を探す	5	4	3	2	1
(4) 仮説を、根拠に基づいて検証する	5	4	3	2	1
(5) 文章を読んだり意見を聞いたりするときは、事実と意見を区別する	5	4	3	2	1
(6) 文章を読んだり意見を聞いたりするときは、前提や用語の定義を正確にとらえて考えようとする	5	4	3	2	1
(7) 文章を読んだり意見を聞いたりするときは、論理の飛躍がないか、先入観に基づいて意見が述べられていないか考えながら読む	5	4	3	2	1
(8) グループ討論において、人の発言を聴くとともに、自分の意見をきちんと伝える	5	4	3	2	1
(9) レポートを、根拠に基づいて、論理的にまとめる	5	4	3	2	1
(10) わかりやすく効果的な発表をする	5	4	3	2	1
(11) 探究の中で得られた情報にもとづいて、問いと活動の過程を振り返り、改善点を考える	5	4	3	2	1

#### 2. 「問い」を持つ力

あなたは、「サイエンス探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「創造探究」「看護探究」での探究活動において、どんな「問い」を探究したいと考えていますか？

また、探究に取り組むにあたって、どんな「問い」を意識しながら取り組んでいますか？

### 3. 学習スキル・批判的思考力

学校の授業や自宅での学習、ふだんの生活において、下に書かれていることは、いつもの自分に、どれくらいあてはまりますか。「あてはまる」から「あてはまらない」までの5つの答えから、それぞれ1つずつ数字を選び○をつけてください。

		あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない
(1)	授業で学んだことを、ふだんの生活や社会のできごとにあてはめて考えてみる	5	4	3	2	1
(2)	授業で新しく学んだことを、他の教科で得た知識と関連づける	5	4	3	2	1
(3)	授業で学んだことのなかで大事なことを、自分の言葉でまとめてみる	5	4	3	2	1
(4)	授業で関心を持ったことについて、自分で本やインターネットで調べてみる	5	4	3	2	1
(5)	いろいろな考え方の人に接して、多くのことを学びたい	5	4	3	2	1
(6)	思い込みで判断しないようにいつも気をつけている	5	4	3	2	1
(7)	自分の意見や考えについて、なぜそう考えたのかを筋道立てて説明する	5	4	3	2	1
(8)	はっきりとした理由を考えて自分の行動を決める	5	4	3	2	1
(9)	一つ二つの立場だけではなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	5	4	3	2	1
(10)	2つの考えのうちどちらかに決めるときは、できるだけ多くの証拠を調べる	5	4	3	2	1

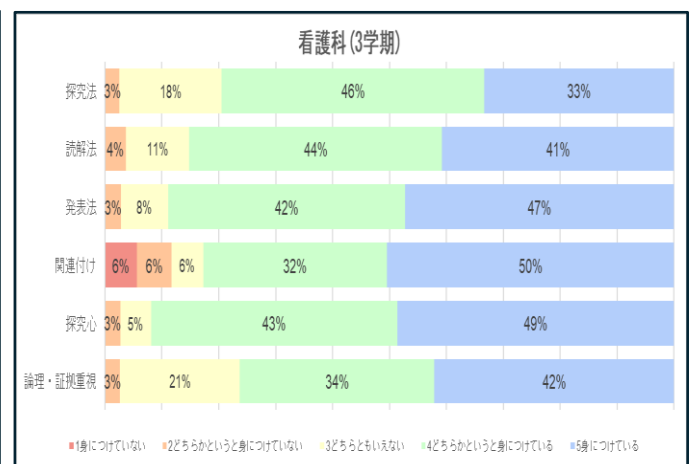
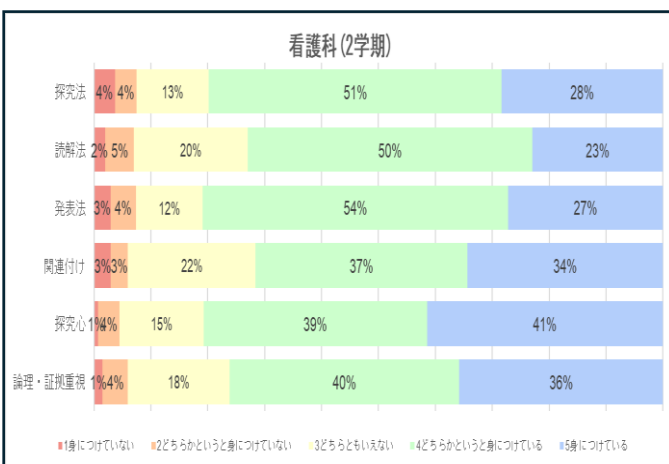
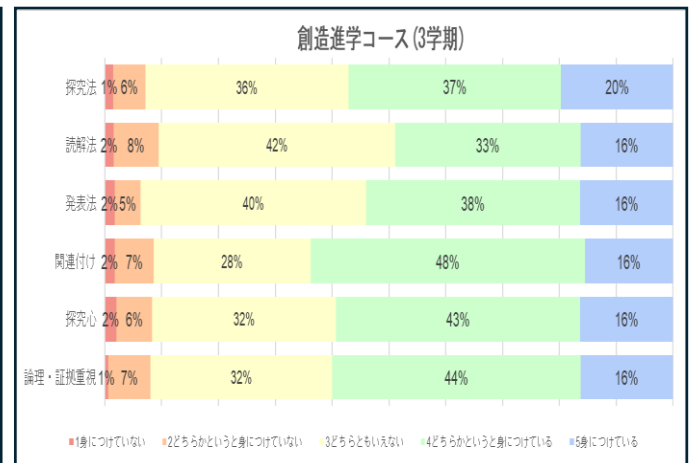
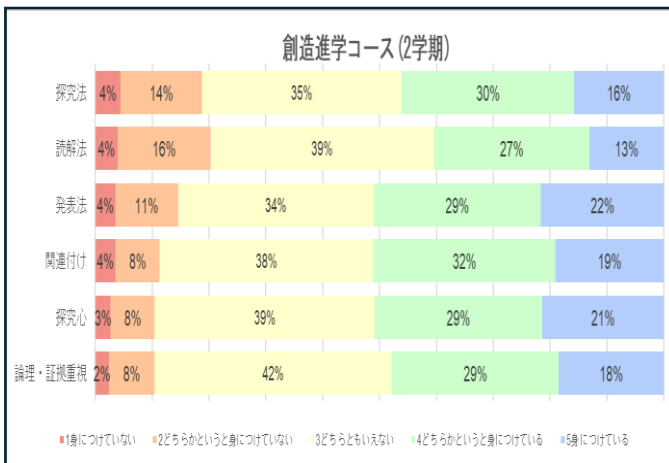
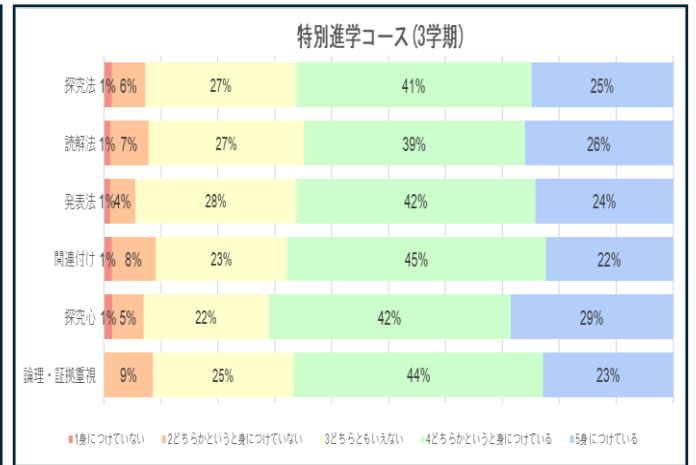
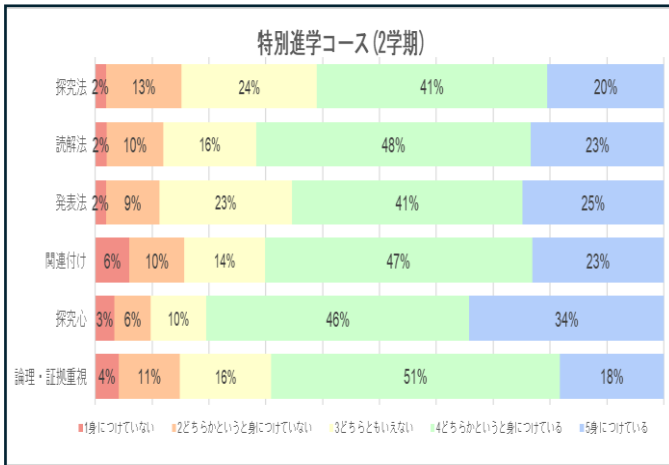
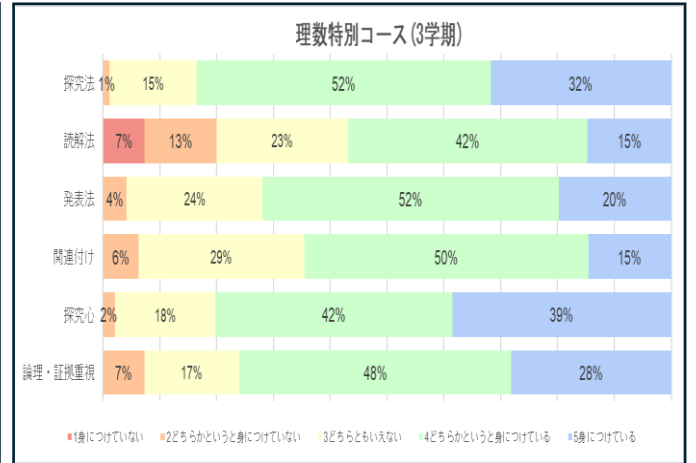
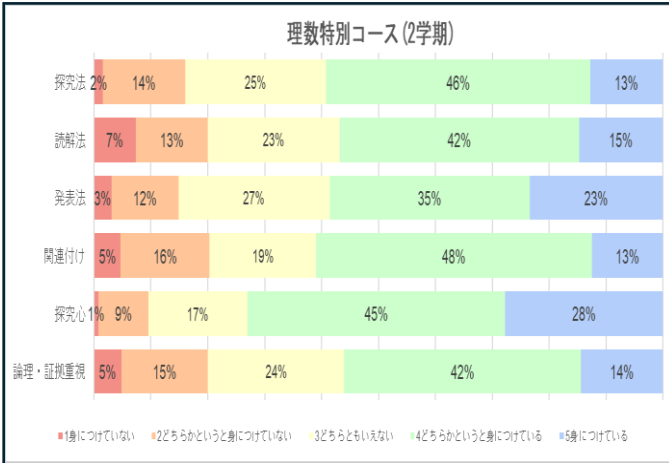
### 4. 関連づける力

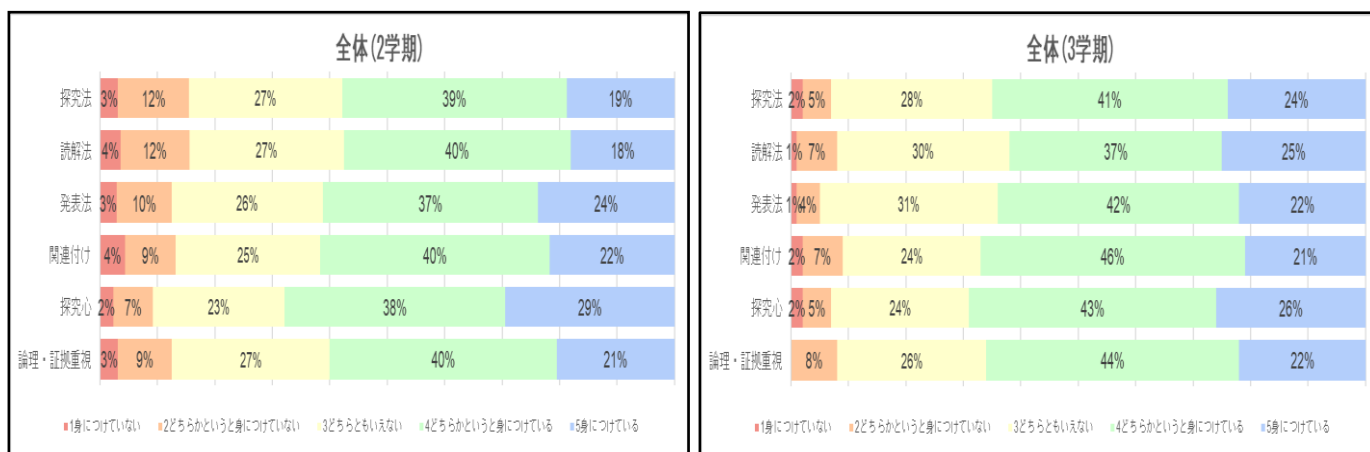
あなたは、「サイエンス探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「創造探究」「看護探究」での探究活動に取り組む際に、別の学習場面や生活場面で学んだこととの関係に気づいた、というような経験はありますか？

「サイエンス探究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「創造探究」「看護探究」で学んだことが、別の学習場面や生活場面での気づきにつながった、といった経験はありますか？

もし、そのような経験があれば、その経験について説明してください。文章で書いても図で書いても構いません。

(2) アンケート結果 (10月実施[左]、2月実施[右])





#### 4. 令和7年度SSH活動内容

日程	事業内容
[2025年] 4月17日	Japan Handmade of The Year 2025 最優秀賞獲得 「生分解性プラスチックによるルアーの開発」
5月17日	中国四国地区 生物系三学会合同大会 2025年度愛媛大会[愛媛] 「カビに対する蜂蜜の抗菌作用の解析」 「児島湾内の海と河川におけるスズキの生態調査および生分解性プラスチックルアーの開発」
6月16日	理科大好き実験①「分光つつ de SDGs を考える」
6月27～28日	SSH 交流会(鳥取)
6月30日	理科大好き実験②「酵素とヨウ素デンプン反応」
7月11日	第1回 SSH 運営指導委員会
7月14日	理科大好き実験③「酸・アルカリ性反応」
7月17日	創造力育成講座
8月2日	第18回高校生模擬裁判選手権 オンライン大会3連覇
8月2～3日	Qiita×FastDOCTOR Health Tech Hackathon
8月6～7日	令和7年度SSH全国生徒研究発表会[神戸] 「カビに対する蜂蜜の抗菌作用の解析」
8月15～17日	全国課題解決アイデアコンテスト@大阪万博 出場
8月23～24日	第2回 生成AI甲子園 個人戦 優勝
9月2日	日本応用糖質科学会 2025年度(第74回)[岡山]
9月6日	日本動物学会 第96回名古屋大会[名古屋] 「トランスルーセントグラスキャットフィッシュの行動の解析」 「実験室内におけるミスジマイマイの摂食行動の解析」 「マウスの肝臓における薬物代謝酵素遺伝子群の性差」
9月8日	理科大好き実験④「飛行リング」
9月20日	日本植物学会第89回大会[福岡] 「普段は捨てられてしまう野菜の皮で、植物は育つのか？」 「水耕栽培での、肥料によるバジルの変化」
9月22日	理科大好き実験⑤「風船ロケット」

10月3日～ 12月12日	岡山大学との研究連携 「日本の高校生における植物意識格差に関する研究」
10月4日	創志コミュニティカレッジ (SCC)
10月4～5日	1年理数特別コース東京研修(広尾学園)
10月6日	理科大好き実験⑥「光るLEDプレート」
10月20日	理科大好き実験⑦「野菜の浮き沈み」
11月1日	サイエンスチャレンジ岡山 2025
11月3日	第98回日本生化学会大会[京都] 「マウスの各筋肉組織における遺伝子発現の差異の比較解析」 「マウスの肝臓における薬物代謝酵素遺伝子群の発現の性差」
11月10日	理科大好き実験⑧「手でふれずに回るコマ」
11月16日	第36回日本数学オリンピック (JMO) 予選
11月16日	第1回日本女子数学オリンピック (JGMO) 予選
11月17日	理科大好き実験⑨「リニアモーターカーを作ろう」
12月1日	理科大好き実験⑩「サボニウス型風力発電機」
12月12日	SSH探究発表会(1年)
12月15日	理科大好き実験⑪「自転車発電機で、テレビをつけよう」
12月16日	SSH探究発表会(2年)、第2回SSH運営指導委員会
12月21日	第18回日本地学オリンピック一次予選
12月21日	AcademiQ Summit 2025 [大阪] 「2次式における係数の入れかえと因数分解の可能性について」
12月22日	理科大好き実験⑫「色素増感太陽電池」
12月25日	高校生夢育 PBL フォーラム 2025